

令和5年度 半田市総合計画市民評価委員会 議事録

開催日時	令和5年10月25日(水)	10時30分～12時00分
開催場所	半田市役所4階 会議室404	
会議次第	【議題】 第1章 基本施策2「学びの応援」 (1) 所管課長説明 (2) 質疑 (3) 評価	
出席委員	(副委員長) 鈴木 (座長) (委員) 桑山、榊原、岩浪 ※敬称略	
事務局	企画課長、企画課(竹之越・倉野)	
出席職員	生涯学習課長、図書館長、博物館長、新美南吉記念館長	
議事概要		
(1) 所管課説明	資料及び事前質問回答に基づき、説明(生涯学習課長)	
(2) 質疑	<p>(委員) ゲストティーチャー制度について、キャリア教育のコミュニティースクールと市民活動団体の活動内容が重複しているように感じる。それぞれの連携や線引きはあるのか。</p> <p>(生涯学習課長) ゲストティーチャー制度は、元々、小中学校が総合学習の場で地域と交流できるようにリスト化したという経緯がある。その後、一般市民や企業の方にも対象を広げた。市民活動団体との重複も多いが、お互いの活動について情報共有を行い、上手に連携できている。</p> <p>(委員) PTAやコミュニティースクールとの密な連携はあるか。</p> <p>(生涯学習課長) PTAや学校運営協議会へリストを共有しており、実際にPTA活動において利用されている。より利用してもらえるよう、今年度は啓発動画を作成し、広報の幅を広げている。</p> <p>(委員)</p>	

企業の登録数は。また、企業や商工会議所などの連携はあるか。

(生涯学習課長)

現在10社が登録している。小中学校での出前授業の実績を活かして、一般市民向けの企画も一緒に開催した。今後も企業と連携し、より広く市民の方にも活用してもらえるようにしたい。

(委員)

まちなかでアートとゲストティーチャーの関わりはあるか。

(生涯学習課長)

ワークショップやイベントの講師としてゲストティーチャーを活用している。併せて協力者の公募も行っており、アーティストの活躍の場を提供している。

(委員)

ゲストティーチャーの登録者の人気に偏りはあるか。

(生涯学習課長)

偏りはある。登録者へは、毎年、登録更新の意思確認を行っている。

(委員)

登録者から利用者へのアプローチは行っているか。利用回数が少ない登録者へのフォローはどのようにしているか。

(生涯学習課長)

過去に利用した方へアプローチを行っている方もいる。利用回数が少ない方へは啓発動画への参加を促したり、その時のトレンドや社会情勢にあえば、生涯学習課主催の「まなびとゼミ」の講師として参加してもらっている。

(委員)

事前質問（追加資料2頁）で伺った図書館・博物館の在り方について伺いたい。

(博物館長)

来年で築40年を経過し、建物の老朽化状況を調査中。改修に併せて、今後の在り方を検討しており、音声ガイドやVRの導入など体験できる博物館にしたいと考えている。「総合博物館」として、自然や歴史の分野も残しながら、半田の強み

である山車文化も発信していく。

(委員)

自然植物の分野で半田の文化を伝えていくところでは、公園事業との連携はあるか。

(博物館長)

現在はないが、博物館に配属されている専門員が『文化財よもやま話』として公園などテーマ決めて皆さんに発信している。

(委員)

市民の意見を聞く機会はあるか。

(博物館長)

半田市立博物館展示整備基本方針策定時にパブリックコメントを実施し、市民の意見を踏まえて作成した。

(委員)

コロナ禍前は博物館のエントランスで音楽会等をやっていたが、今後の実施予定は。

(博物館長)

今年は、からくり人形とお囃子を実施した。今後も、図書館・博物館分野に限らず実施し、普段来館しない人が来るきっかけを作っていきたい。

(副委員長)

新美南吉記念館は、今後の在り方について方針はあるか。

(新美南吉記念館長)

方針や計画は策定していない。今年の生誕 110 年に向けて 2 度目の展示のリニューアルをした。今後も 10 年毎に在り方を見直していきたいと考えている。周年事業を単発で終わらせることなく、南吉の面白さを色々なアプローチで発信していきたい。

(副委員長)

周年を機に変化している実感がある。今後も取組を継続してほしい。

(委員)

文化財の保存継承に関して、ミツカンの招鶴亭文庫など、民間との連携はどの程度行われているか。

(博物館長)

ミツカンとの連携はできていない。市の文化財とコラボするなど観光協会を含めて連携していきたいと考えている。今後、学習映像ソフトを活用して、半田市の文化財を紹介できるような仕組みを導入していきたい。

(委員)

企業からも市との連携を望む声を聞く。民間の文化財同士をつなげる取組が必要であり、観光協会も協力していきたい。旧中埜家住宅は、管理・継承の中心となる団体がいないことを心配していると聞いた。

(博物館長)

半田市が桐華学園から譲り受けており、博物館が管理している状況。市でしっかり魅力発信、文化継承を行っていく。

(委員)

図書館の利用者の内訳はわかるか。また、利用が少ない世代へのアプローチはしているのか。

(図書館長)

性別は集計していない。年齢層は16～22歳が少なく、23歳以上の社会人が圧倒的に多い。利用が少ない世代は、本離れやライトノベル等の人気図書がないことも原因の1つと考える。電子書籍は30代以上の利用が多い。人気の本や作家の本はすぐには電子化されないためジレンマを感じる。

(副委員長)

16～22歳は、高校・大学の図書館を利用している可能性が高く、利用が少ないことが悪いことではないと思う。年代によって目的が違うので、それぞれ利用しやすい場で必要な時に図書に触れられていれば良いのでは。

追加資料 17 頁の主要事業評価シート「図書館資料整備事業」の目標値「市民一人当たりの貸出点数」を令和4年度に下げているのはなぜか。

(図書館長)

コロナ禍を考慮し、貸出冊数の低下を見込んだ数値にしている。

(副委員長)

各施設について、多言語化の取組状況を知りたい。

(新美南吉記念館長)

令和 4 年度の展示室のリニューアルに伴い、常設展示のパネルをすべて英語・中国語対応とした。

(博物館長)

対応できていない。改修のタイミングで南吉記念館と同様に対応したい。

(図書館長)

申請書は多言語化、やさしい日本語は導入済み。電子書籍の一部は多言語化しており、日本語初期指導で利用されている。

(委員)

基本成果指標 1 つ目の「学習活動に取り組んでいる」とは、生涯学習の取組だけではないという認識でよいか。また、昨年から数値が 10 ポイントも数値が上がっている要因は何だと考えるか。2 つ目の「文化芸術を鑑賞した」というのも半田市という縛りはないと認識でよいか。

(生涯学習課長)

その認識でよい。まちなかでアートなど、気軽に生涯学習活動につながる機会を企画しており、それが数値上昇につながっていると嬉しい。

(副委員長)

性別、年齢別で分析すると、生涯学習課の取組がどの世代に響くのかというのも見えてくるのではないかと思う。

(生涯学習課長)

イベントごとにアンケートを取っているが、60 歳以上がほとんど。若い世代への情報発信として、今年度から生涯学習課の Instagram アカウントを開設し、様々な情報を発信している。

(副委員長)

	<p>他の自治体で若い世代を上手に集客しているところはあるか。</p> <p>(生涯学習課長)</p> <p>知多地区の4市5町にヒアリングしたが、どこも同じ課題を抱えている。また、長久手市は子育て世代が多いため、子育て世代向けのイベントを多く開催している。アーティストが市内に短期滞在し創作活動を行う「アーティスト・イン・レジデンス」は、今後参考にしたい取組である。</p>
<p>(3) 評価</p>	<p>(委員)</p> <p><B 評価></p> <p>多世代にわたる学びの場の創設や市民への啓発に取り組めており、文化の継承や担い手の問題などの課題も把握しながらも、若手職員の技能やアイデアを柔軟に取り入れられている。引き続き、市民が学ぶことへの興味関心や意欲が高まる新たな企画や周知方法を取り入れていくことを期待する。博物館や図書館では、国籍に捉わられることなく多世代が学ぶことができる環境整備として、多言語書籍の充実や音声ガイダンス、案内板等の多言語化が必要と感じた。</p> <p>(委員)</p> <p><A 評価></p> <p>ゲストティーチャー制度による学びの場づくり及びまちなかアートによる文化に触れる環境づくりが進んでいると感じた。今後は、量だけでなく質も高めていってほしい。まちなかアートにおいては、ターゲットに合わせた民間のコーディネーター活用が進むと良い。文化の継承については、中埜家住宅含め、まだまだ課題があると感じている。これから、民間文化財が増えていくため、どのように保存・継承していくか期待する。</p> <p>(委員)</p> <p><A 評価></p> <p>全体的に良い取組が進んでおり、ゲストティーチャー制度を基に様々な講座を実施していることも評価できる。今後の期待も込めて、A 評価とした。ゲストティーチャーにおける講師の人気差によりモチベーションが下がることが懸念される。また、新たな方法で取組を周知することも大切であるが、紙媒体など、イベントへの参加率が高い世代への周知もなくすことなく実践していってほしい。</p> <p>(副委員長)</p> <p><A 評価></p> <p>基本指標の達成度も良好であり、着実に取組の成果が表れており、これまでのステップは良いと評価できる。民間のコラボや市民が自主的に活動できるという最終目標に</p>

向けて、次のステップを考えていってほしい。また、施策、事業成果を確認するためにアンケート結果の対象者を年齢等で区分し、分析することが必要と感じる。

(副委員長)

全体としての評価は、A評価としてよろしいか。

※欠席者1名 A評価

(全員)

異議なし。

(副委員長)

最終的な評価の決定は次回12月19日の会議で行う。